

生 活 科

子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援

1 本校における生活科の基本的な考え

新しい学力観に立つ教育においては、子どもの思いや願いをもとにして、新たな課題に取り組み、自ら考え判断し、表現することを重視している。また、その過程で子どもが自分の力で新しい知識や技能を身につけ、学習や生活に生きて働くことを目指している。

小学校指導書生活編の示すように、「・・・具体的な活動や体験を通して、よき生活者として求められる能力や態度を育てる事であり、つまるところ自立への基礎を養うことをめざしている」生活科は、そのまま新しい学力観に立つ教育であるといえよう。

本校の生活科においても、「子どもたちに、『生活』を持たせ、子どもたちの価値観を軸にして学習展開を図る。その生活の場で、生きる力を自らの手でつかみ取らせる」という指導理念のもとに、次の図で示すような基本的な考えにおいて生活科学習を実践してきた。

変化する社会に主体的にたくましく生きる力を育てる



自ら、体全体で働きかけ、試行錯誤を繰り返しながら、よりよく生きる知恵を身につける。

(生きて働く知恵)

<体験による教育、体験が生きる学習>

2 生活科で育てたい学力

本校の基本的な考えのもとに、生活科においてめざす学力を具体的な児童の姿としてとらえてみると、次のように描くことができる。¹⁾

- (1) 具体的な活動や体験を通して、知的な問いや実践的な欲求を見つける子ども「なぜ、〇〇なのだろう」「どうしたらもっと〇〇できるだろう」
- (2) 自分で見つけた問題について、自分なりに解決する方法を考えたり、判断したりする子ども「どうやって調べればよいのだろう」「どうしたらできるだろう」

- (3) 自分で気づいたり感じたことを豊かに表現する子ども
- (4) 自分や友だちのしたこと（していること）をふりかえる子ども

これらの学力については、平成4年度以前の一連の本校研究主題である「個が生きる授業の創造」「個が生きる授業の評価」「自己を高める評価力の育成」の実践・研究の中で、その育成に取り組んできた。昨年度より、「感性を育む」という視点において、より一人一人の主体的な学習を重視していく生活科の支援のあり方について研究を進めている。

3 豊かな感性を育む活動にするために

本校生活科では、昨年度より「子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援」をテーマとして実践・研究を進めてきた。昨年度は、活動や体験の中で、楽しさやおもしろさを感じることに焦点をあてた。その実践の中から、豊かな感性を育む活動や体験においては、次の点が大切であることが明らかとなった。

- 子どもたちが体験の楽しさを実感できる。
- 子どもたちの力で工夫することが可能である。
- 本物を丸ごと体験できる。(時間的、空間的にも)

このことをふまえて、2年次である本年度は、活動や体験の中から問題を見つける力、自分なりの調べ方や表現の仕方、遊び方を工夫する力を育む支援について焦点をあてることにした。

4 子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援

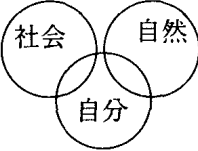
子どもの豊かな気づきや感じとりを育む生活科の支援を考える際、その基本としては、次のような点を考えている。なお、次に示したのは、本校の考える豊かな気づきや感じとりを育む生活科の学習ステップと各過程における支援の例である。

(1) 具体的な支援（直接体験を通して）

- ① 事前において、一人一人の生き方の面から活動や体験をとらえていく。
一人一人の豊かな気づきや感じとりを育む上でも、生活科における活動や体験が、その子どもの生き方とどう関連しているかについて、教師がとらえておくことが必要である。その子どものこれまでの体験や、学習での体験に対する思いや受けとめ方を把握しておくことをこれまで以上に重視していく。
- ② 子どもの自由な発想を大切に活動にする。

一人一人の豊かな発想が生きる活動にするために、子どもと活動しながら、

第三章 豊かな感性を育む授業実践

学習ステップ	めざす子ども像	支援活動
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;">学習対象に対する 子どもなりのとらえ</div> <ul style="list-style-type: none"> ・既習知識 ・イメージ ・これまでの体験 		<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習対象に対する子どものイメージ, これまでの体験, 既習知識について表現されたものを一人一人について明確にしておく。 ・ 学習のねらいをふまえて, 授業を構想する。
<div style="text-align: center;">  </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">環境と出会う</div> <p style="text-align: center;">活動や体験 感動・驚き・違和感・関心 欲求・疑問・意欲</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p style="text-align: center;"><めあてをもつ></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">自分なりの問題を見つける</div> <p style="text-align: center;">↑ ↓ もっとよい・・・にしよう どうしたら・・・できるか ↑ ↓ ...はどこか探そう なぜ・・・なのか調べよう ↑ ↓ <めあてを追究する></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">実践しながら, 自分なりの 解決方法を考える</div> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分なりの 方法を考える</div> <div style="margin: 0 10px;">←</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">自分なりに 実践する</div> <div style="margin: 0 10px;">→</div> </div> <p style="text-align: center;">↑</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓ 探検する・観察する 工夫する・遊ぶ 育てる・作る ↑ ↓ 表現する (文章, 言葉, 絵, 造形, 身体) ↑ ↓ <振り返る></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">自分の活動を振り返る</div> <p style="text-align: center;">↑ ↓ 自分考えの変容 ↑ ↓ できた自分への気付き</p> <p style="text-align: center;">↑ ↓ 成就感 ↑ ↓ 充実感 ↑ ↓ 失敗感</p> <p style="text-align: center;">← (新たな問題を見つける) ↓</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0; text-align: center;">よりよく生きる知恵</div>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 活動や体験の中でおもしろさを感じる ・それまでの自分の体験や知識をもとに ○ 活動や体験の中から問題を見つける ○ 実践しながら, 自分なりの遊び方や調べ方を考える ○ 自分の考えたことを実践する ○ 自分なりの方法で表現する ○ 友だちの表現を受けとめる ○ 相互評価を通して自分なりのよさや変容を見つける ○ 自分の活動を振り返る ○ 体験や活動をもとに新たな問題を見つける 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px; text-align: center;">自分で気づき, 判断し 実践する活動の重視</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本物との総合的な (まるごとの) かかわりを大切にする (事象との出会いの中での子どもの気づきや感じとり) ・ 一人一人の子どもの思いや願いをとらえて, 問題のみつけ方, 発見の仕方にかかわる助言をする。 ・ 一人一人の活動を共感的に理解し, 助長していく。 (めあての追究の中で子どもの気づきや感じとり) ・ 子どもの思いや願いが生きる弾力的な学習展開を図る ・ 児童の活動を見守りながら支援の方法・時期をとらえる ・ 自分なりの問いや方法を見つけることのできた自分に気づかせる場を設定する。 ・ 友だちのどのような考えが心に残ったか ・ 自分活動, 考えがどう変わったか ・ 何をきっかけに変わったか ・ 授業後も子どもがめあてを追究し続けられるように, 評価と支援を続ける。 (日常生活との一体化)

学習内容を見つけ、その内容を深めていくようにする。

③ 活動の中で見通しをもっていくプロセスも大切にする。

子どもが、めあてを追究する場合、自分のめあてをもつ→追究の方法を考える→実践するプロセスが考えられる。しかし、生活科学習の場合には、先ず活動する→追究の方法を見つける→さらに活動するというプロセスも大切にしたい。

机上であるいは、教室で、解決の方法を考えるだけでなく、見通しをもたないまま外に出て、あるいは対象と関わるなかで、解決の方法を見つけ、それを実践するといった流れも大切にしていきたい。

④ 対象と深く関わるができるようにする。

対象と関わりにおいては、実際の行動においての関わりだけでなく、アニメズミ的な感情等も含めた精神的、情意面も重視していく。

⑤ 子どもが自分を取り戻す場、見直す場を設定する。

学習の中で、その子なりの問いや方法を自分で見つけることができた自分に気づかせることができる学習過程や振り返りの場を大切にしていく。

⑥ 生活科の授業が子どもの生活に続くような学習にする。

生活科の授業が一人一人の子どもの将来の生活においてどのように続くのかを教師は見通しをもって学習を考えていきたい。

めあてをもつ→めあてを追究する→振り返るというステップは、そこで終わることなく、新たなめあての追究へと続くものでありたい。

(2) 教師自身の感性において

子どもの豊かな気づきや感じとりを育むためには、教師自身の感性もこれまで以上に重要となる。

例えば、教師自身に得意なものがある、子どもが気づき・感じたことをつかむことができる、子ども一人一人のもつ「よさ」を内面から大切に受けとめようとするなどがあげられよう。

<註>

1) 「育てたい学力と学習のステップ」については、第100回本校教育研究会生活科協議会における小原友行氏（広島大学学校教育学部）のご助言を参考とした。

2) 「豊かな気づきや感じとり」の表の作成にあたっては、本校夏期研修会（1995.8）において、木村博一氏（広島大学学校教育学部）にご指導いただいた。

（吉浦 公子）